



「初市で買ったおイモがおいしいよ」(若草保育園児の皆さん)

うたごよみ 卯月

「短歌」

米納三雄選

植木市に並ぶ花木の中に立ち亡友の好みし百合を手取る
上村やす美

野良猫二匹はぐれ子猫に寄り添いて情を見せ

おり今宵冷えるな
内山タミエ

長い冬ようやく過ぎて食卓も春の恵みぞ感謝

して食す
緒方 明美

立て掛けし柱に置ける朝の霜いつしか解けて

三・六の文字
赤星 延子

大根の具のお味噌汁は母の味二月十日は六十五回忌

紅梅の花の一輪咲きいしが三日経つ間に五分咲きとなる
塚原 暁益

紅ふむ椿の蕾固けれどやがて開かむ八重の花待つ
本田富美子

裏庭の紅梅凜と咲き満ちて如月の風に香を漂わす
森田 房恵

春風に誘われ来しか菜の花は吾も吾もと競い咲きおり
内田乃武子

並び立つ梅の紅白雨に散り華やぐ庭をしばし愛でおり
井上ユリ子

友描く奥入瀬溪谷懐かしむ亡夫と旅せし若葉照る道
上村 かず

歳老いて足腰痛いの口癖が治らぬままに農に生きおり
吉永由紀子

頭上ゆく鴉の声を聞く度に「阿呆・阿呆」と言われるごとし
渡辺 幸士

「川柳」

「雛祭り」

可愛いくて雛様年中床に置く
丸岡はる子

雛飾りあの思い出がふと浮かぶ
内村 邦炎

雛祭り主役はおらず老いばかり
伊豆野ヤエ

雛祭り今年で三たび丘の里
道上キヤ子

お雛様二人並んで何語る
楠井かをる

雛段にだぶって見える娘の笑顔
布田 愛子

「お世辞」

お世辞とは判っていないながら憎めない
林 雅之

お世辞とはわかかっていてもゆるむ顔
成松 松枝

見惚れます吉永小百合そっくりね
北 仁子

売り込みのお世辞に負けて買われる
古閑チヨミ

負けず嫌いお世辞に乗せられた嘘
緒方 瑞枝

セールのお世辞に母が酔っている
渡辺 幸士

「俳句」

庭歩せば心弾めり落の臺
高田れい子

春の雨夫のハモニカ吹いてみる
田端 慶子

さえずりの一声きりや庭の凍
堀田 孝恵

明日知らず只生きており春の風
本田 信子

振り返りつ木の実踏む道すがら
楠本 美鶴

選挙戦終わりし町の冴え返り
古田 幸子

■お問い合わせ先 町教育委員会公民館事務局
☎096・234・1111(内線321)

birth お誕生おめでとう

住所	氏名	性別	保護者
糸田	渡邊 海花	女	公 憲
下横田	柴田 文生	男	光 範
豊内	佐藤 宥音	女	竜 也

※3月号の掲載内容に誤りがありましたので、お詫びして訂正し、再掲します。

下横田	根岸 瑠己	男	利 典
-----	-------	---	-----

marriage ご結婚おめでとう

住所	氏名
熊本市	三原 亮太
下横田	田上 明子
上早川	草野 裕太
熊本市	岩下美由紀
芝原	高野 圭章
麻生原	丸山 慶子
宇城市	宮田 亮
府領	牧野 清佳
熊本市	木村 光宏
田口	常田あゆみ
熊本市	小谷 英史
津志田	北川由貴美
合志市	工藤 勝樹
上早川	本田 宏美
熊本市	佐藤 剛志
豊内	栗林 絵美
熊本市	山住 直輝
中横田	松永 春香

condolence お悔やみ申し上げます

住所	氏名	年齢	世帯主
東寒野	吉野トシ工	84	信 義
上早川	野仲 利盛	91	三喜江
豊内	荒木 曼	70	トミ子
麻生原	松村 芳子	101	芳 子
田口	川田健次郎	68	純 子
豊内	中崎 勇	91	勇
早川	森隆ミツ子	90	ミツ子
豊内	緒方チヨキ	97	健 一

Data 甲佐町の人口・世帯数

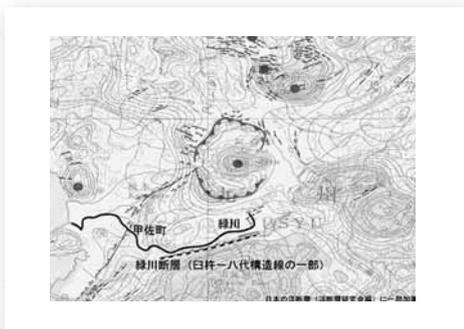
項目	数	増減
男	5,412	4
女	6,128	0
計	11,540	4
世帯数	4,183	10

平成23年2月28日現在

(町史編さんだより)

緑川は源流から美里町を抜けて西流し、甲佐町に入る付近で急に北へ方向を変えます。それとともに、流れも緩やかとなって、川幅も大きく広がります。この理由は、周辺の地質が大きく関係しています。甲佐町の南側には、ほぼ東西方向に「中央構造線(九州では白杵・八代構造線)」と呼ばれる日本でも一番規模の大きい断層が走っています。緑川に並行していることから、この部分については「緑川断層」とも呼ばれています。

緑川と平行に走る「白杵・八代構造線」



が分布し、この部分は風化しやすいため浸食されやすくなっています。そのため中流域では、この構造線の北側の花崗岩地帯に沿って流れていきます。このように、上流・中流部がほぼ西側へ流れるのは、主に地質構造を反映しているものと考えられます。

甲佐の歴史を紡いで

～町史編さんだより(31)～

甲佐町の地質と緑川の流れ

町史編集委員 池辺 伸一郎 (自然環境)

では、なぜ甲佐町に入るところで、急に北側へ曲がるのでしょうか。甲佐町中心部付近の平坦な地域一帯は、「御船層」と呼ばれる砂岩や泥岩からなる地層が分布していたと考えられます。これらの地層は、周辺の変成岩や石灰岩に比べると

比較的浸食されやすいため、古い時代の緑川の流れによって削られました。阿蘇火山が約27万年前に誕生し大噴火を起こした際には既に平坦な低地で、火砕流で埋められたと考えられます。火砕流で埋められても周辺からすると低いので、再び緑川による浸食が始まります。約9万年前に阿蘇4火砕流がここを埋めた後も同じようなことが起きました。現在の緑川は、阿蘇4火砕流を削りながら流域を広げようとしています。阿蘇4火砕流の強溶結部(溶結凝灰岩)が強固な壁となっていたために簡単にはいかず、北側に流れを変えているようです。

▼『甲佐町史』編さんに関するお問い合わせ先
町社会教育課町史編纂係
☎096・234・3310

今、この状況下で、自分たちは何ができるのか、何をすべきなのか、何をしたいいけないのか、そして、この局面にどのように向き合っていくべきなのか…。
3月11日(金)午後2時46分を境に、日本中が容易に答えを導き出せない自問自答を繰り返しているのではないだろうか。
東北地方を中心に、甚大な被害をもたらした「東北地方太平洋沖地震」の脅威。未曾有の大震災と大津波、それに伴う2次災害の負の連鎖。事態全体を見渡そうとすると絶望感が先に立ちがちですが、巻末での前町消防団長・池田さんの話のように、まず手を付けるべきは、自分たちの身近で非常時に対応できる備えを整えることでしょう。
被災された皆様に対し、謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心より祈念いたします。(一)

